

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



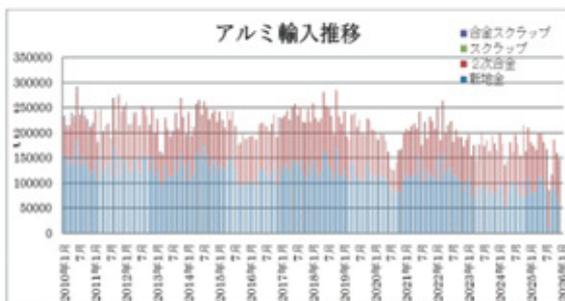
1月のアルミ概況及び2月の見通し(3)

■貿易指標

◆輸入

新地金	-46.2%	5万8,780t
二次合金	-12.7%	8万7,771t
スクラップ	+20.3%	1,183t
合金スクラップ	+13.9%	8,265t

輸入	10月	11月	12月
新地金	9万3,048t	7万7,500t	5万8,780t
前年比	-10.5%	-	-46.2%
二次合金	9万2,515t	8万2,114t	8万7,771t
前年比	-16.4%	-	-12.7%
スクラップ	737t	743t	1,183t
前年比	+17.5%	-	+20.3%
合金スクラップ	8,608t	6,341t	8,265t
前年比	+10.6%	-	+13.9%



出典 財務省 貿易統計

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、12月の自動車生産台数は前年比+1.7%の65万6,562台。輸出は、前年同月比-6.7%の34万6,165台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、1月の自動車販売台数(軽除く)は、前年比-4.2%の22万8,832台。

◆住宅着工戸数

12月の新設住宅着工戸数は、前年同月比1.3%減の減少傾向となった。分譲住宅は増加したものの、持家と賃貸家の減少が影響した。同月は、季節調整済年率換算値で

前月比7.3%の増加となった。

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会(東京・中央)がまとめた2025年11月のアルミニウム圧延品(板・押し出し類の合計)の出荷量は、前年同月比3.8%減の13万5,556トンだった。前年同月を下回るのは3か月ぶり。建設向けの圧延品出荷の低迷が続いており、全体の重荷となった。

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

生産は、前年比+7.3%の6万349トン。2か月ぶりのプラス。出荷は+9.7%の6万747トン。1か月ぶりのプラス。

■見通し

◆アルミ圧延・押出品生産数

2026年2月のアルミ圧延品出荷は、建設向け不振を主因に前年比で横ばい〜小幅マイナス圏での推移が見込まれる。住宅着工の弱さが続き、押出品は回復力を欠く。一方、板類では「缶材」「はく地」が底堅く、自動車は商用車向けが下支えとなる。輸出は円安効果で一定の寄与が期待されるが、国内需要の鈍さを補うには力不足。総じて需給は締まらず、回復は春以降に先送りされる可能性が高い。

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

アルミニウム2次合金は、12月に生産・出荷ともに大幅な前年超えを示し、需給改善の流れが確認された。2026年2月は自動車生産の持ち直しと鋳物・ダイカスト向け需要の底堅さを背景に、生産は前年同月比でプラス圏を維持する見通し。出荷も在庫調整の一巡により堅調に推移し、緩やかな回復基調が継続するとみられる。ただし海外経済の減速懸念や原料市況の変動が上値を抑え、急回復には至らず、安定回復局面との評価が妥当である。

◆スクラップ景況予想

2026年2月の国内アルミスクラップ需給は、回収業の現場感では寒さによる解体・更新工事の停滞で発生量はやや低調。一方、自動車や建材向け需要は堅調で、再生原料への引き合いは強い状況が続いている。市中原料は集まりにくく、需給はややタイト。価格は高止まりし、安定供給には回収網の維持と選別効率の向上が重要。

(次頁につづく)

◆LME・為替予想

●LME予想

2026年2月のLMEアルミ価格は、1トン=2,800~3,300ドルを中心に推移すると予測。米欧の金融緩和継続により実質金利は低位にとどまり、ドル安基調が非鉄金属への資金流入を促進する。年初は機関投資家のリバランス需要が集中し、指数連動型の買いが価格を押し上げやすい。加えて、中国の電力制約と環境規制により供給増が抑制され、再エネ・EV向け需要の拡大が実需面を下支えする。金融主導と需給要因が重なり、高値圏での安定推移が見込まれる。

●為替予想 155円~160円

2026年2月のドル円は155~160円レンジを想定する。最大の焦点は米金利動向で、FRBはインフレの粘着性を背景に利下げを急がず、長期金利は高止まりしやすい。

一方、日本は金融正常化が緩慢で日米金利差は依然大きく、基調はドル高・円安。ただし、過度な円安局面では日米協調介入観測が浮上し、上値は限定されやすい。米金利の高止まりが続く限り、押し目ではドル買い優勢とみる

合金メーカースクラップ購入価格に関しては +5から+10円上げを予想。

(おわり)